

1月給食だより



～くらべてみよ

あけましておめでとうございます。

3学期がスタートしました。来年度にむけて1年を締めくくりましょう！
まだまだ厳しい寒さが続きますが・・・食事はもちろん、早寝早起き等生活習慣を整えて、
元気に過ごしたいですね。

さて今月24日から**全国学校給食週間**が始まります。

「そもそも学校給食週間とは・・・？」と思う人が多いのではないのでしょうか。
今月は「学校給食週間」について少し詳しく説明していきますよ～

清瀬市立
清瀬第五中学校

<昭和22年(1945年)頃>



ア
物
食
た。
脱
ま

<昭和40年(1965年)頃>



昭
ソ
さ

<現在の給食(2021年)>



全国学校給食週間ってなに??



学校給食は明治22年(1889年)に山形県鶴岡市の私立忠愛小学校で貧しい家庭の子供に昼食を出したのが始まりとされています。

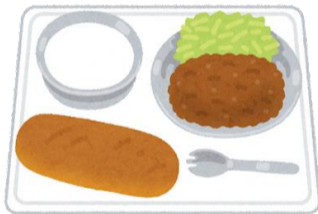
その後、全国に広まりましたが、戦時中は中断されました。そして、戦後、昭和21年(1946年)12月24日から、東京・神奈川・千葉で全児童を対象に学校給食が再開されたのです。

文部科学省ではこれを記念し、学校給食の意義や役割についての関心をさらに高め、理解してもらうため、冬休みと重ならないように1か月遅らせた1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」と定めています。

(学校給食フォーラム1月号より)



つまり・・・「**学校給食週間**」をきっかけに、**給食が学校で出される意味やその役割**について改めてみんなで考えてみよう！
という思いが込められているのです。



給食ってただの
お昼ごはんじゃないの・・・??

<まとめ>

はじめは成長期の子供たちが栄養ですが、現在は「**教育の一環**」
げられています。(詳しくは裏面)
毎日の給食で栄養バランスや地域
さまざまなことを学ぶための「**生きて**
担っています。

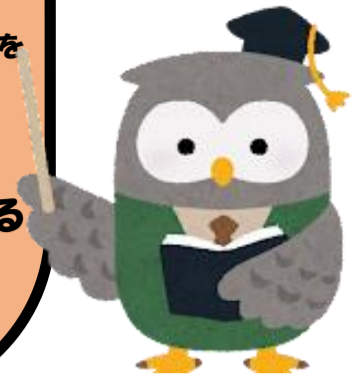
～学校給食の役割～

- ① 適切な栄養摂取による**健康の保持・増進**を図る。
- ② 日常生活における食事について**正しい理解**を深め、健全な食生活を営むことができる**判断力**を培い、**望ましい食習慣**を養うこと。
- ③ 学校生活を豊かにし、**明るい社交性及び共同の精神**を養うこと。
- ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、**生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度**を養うこと。



皆さんは、
全く手を付けず
食べてみてくだ
感じるような
苦手だと思っ
す。
さまざまな味
苦手な食べ物

- ⑤ 食生活が食に関わる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、**勤労に重んじる態度を養うこと。**
- ⑥ わが国や各地域の優れた**伝統的な食文化**についての理解を深めること。
- ⑦ **食糧の生産、流通及び消費**について、正しい理解に導くこと。



参考文献

学校給食 12月号

<http://www.eiyou-chiba.or.jp/commons/shokuji-kou/generation/kyusyoku/>

公益社団法人千葉県栄養士会 「学校給食の変遷」より

よう！昔の給食と今の給食～

<昭和25年(1965年)頃>



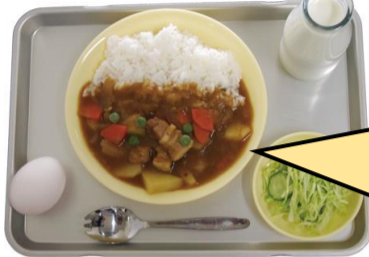
アメリカからの援助
資を使って学校給
食が再開されまし
、牛乳のかわりに
指粉乳が提供され
ました。



アメリカから寄贈された小麦粉
を使い、パン・ミルク・おかずの
完全給食が始まりました。おかず
には、当時安価だったくじら肉が
良く使われました。

<昭和51年(1976年)頃>

昭和38年頃から
ソフト麺が導入
されました。



現在に比べ、当時の給食
はパンの回数の方が多
かったそうです。
昭和51年頃、ようやく
米飯が給食に導入され
ました。

ご飯を中心とした和食の献立を基本に、郷土料理や行事食を提供して
います。また、世界の多様な食文化への理解を深めることを目的
とし、さまざまな国の料理も取り入れています。



養不足にならないようにはじまった学校給食
として、栄養の摂取以外にも様々な目標が掲
げられています！)

地域の食文化、食べ物への感謝の気持ちなど、さま
ざまな「食育教材」として活用するなど、「食育」の役割も

食べ物にも「トライ」しよう!



給食で苦手な食べ物が出たら、どうしていますか？
残している人もいるかもしれませんが、ひと口でいいので
食べてください。初めは苦手でも、食べ慣れることでだんだんとおいしく
なっていきます。また、味覚は成長とともに変わっていくので、
苦手な食べ物でも、食べてみたらおいしかったということもありま

味の経験を積むことで、豊かな味覚が育ちます。今年は「寅年」、
ぜひ「トライ」してみてくださいね！

